

短い癒し度100%の美溪

尾瀬・片品川・中ノ岐沢「小淵沢」

【日時】 2009年19日～20日

【メンバー】 L高橋(記・写真)・山口・渡辺

ズーツと前から気になっていた溪。元気な内に行こうと思立ち、単独とも考えたが？念の為山口さんに声をかけると、気持ち良くOKの返事。更に天候の具合で別の山行が中止になった渡辺さんも。天気の様子も考慮し「日帰り」とも考えはしたが「久し振りの沢なのだから焚き火をしい」との意向が強く、結局『「大清水」～「奥鬼怒林道」～「小淵沢林道」が沢を横切る辺りに幕営 天気次第では翌朝に早立ちで遡行を終え、沢沿いに付いているらしい「刈払い」を使って下山』の計画を立てる。朝の道の駅「白沢」ではどんよりした曇り空だったが、尾瀬に着くと雨が落ち出た。出鼻をくじかれる思いだったが、今日はアプローチのみと決め林道に歩を進める。鹿の被害が大きいのだろうか？林道の左右はネットが張り巡らされ、所々に開き戸が設置されていた。50程の歩きでスパー林道を離れ、小淵沢沿いの林道を進む。一時間で入溪地点の「橋」だ。このりには幕営が可能な平坦地が見当たらず、更に林道を上に上がっては見たが、適当な物件がなく、再び戻り、橋の下流50mに降りて天場を確保した。



毎度の事だが何故か？この流域の木は燃えが悪い。粘り強い辛抱が肝要だ…。小粒ながら美味しい「岩魚の骨酒」も頂き、長い長い夕べを楽しむ…。

第2日目(7月20日) 小淵沢遡行。入溪点から暫く行くと岩盤が発達した好ましい溪相に「ヤッター」の歓声。側壁は柱状節理の岩肌で、ナメ状の岩盤を水が勢い良く流れ落ちている…。



小滝で高度を上げる溪相で、ナメ、小滝の繰り返し。イヤイヤ我々向きの「穏やかな癒しの溪」だね。等と山口さんと語らいながらの楽しい沢旅が続いた。



兎に角、沢山の美曝を顔を出すのだが、其のどれもが苦もなく登れるのだ。実に愉快だ。HPで何枚かの写真を拝見して「これは綺麗な渓だ」とは思っていたが、これ程多く滝が出てこようとは思っていなかった分、感動も大きい。

左の写真:多くの滝の中でも特に美しい「二段25mの大滝上段部分。船形・笹木沢の「鎧滝」を彷彿させる見事な姿だった。

この先の、結構な迫力を持った二段滝などは右を登るが、中間部の一手が微妙で、水量が多い時は、きっと苦勞するだろう。まだまだナメ床が続き、ナメ滝が顔を出す、やがて、小淵沢最後滝はハングしていて、唯一登攀不可だ。右の泥ルンゼを登り、高巻くが、踏み跡はハッキリして、この溪が、多くの岳人を迎えている様子が窺がえる。

この滝を過ぎると溪は穏やかに。我々は本流を忠実に詰めた筈だが、何と「田代」の鬼怒川寄りの「尾瀬沼」からの登山道に出てしまうミスをした。登山道に戻って「小淵沢田代」を訪れたのが、何とも味気ない結果になり、残念至極。田代には「ワタスゲ・キンコウカ・ラン系の花・キスゲ」などが少ないながらも我々を歓迎してくれた。田代からは「小淵沢」入渓点近くまで切り開きがあ膝に優しい道を下る事が出来た。



【コースタイム】

7月19日

大清水7:20-8:15小淵沢橋

10:30小淵沢二俣(幕营地)

7月20日

天場6:30-10:00登山道

-10:20小淵沢田代

-11:50天場12:20

-14:00大清水